

うるわしき薔薇

ルドウーテ『バラ図譜』を中心に

*les roses, les plus
gracieuses
des fleurs*

2022
7/9 sat ~
8/28 sun

ピエール＝ジョゼフ・ルドウーテ（1759～1840）はフランス、アルデンヌ地方のサン＝チュベール（現ベルギー）に生まれ、パリで彫版法と多色刷りの技法を学んだ後、植物画家として活動を始め、王妃マリー・アントワネットの博物収集室付素描画家となります。革命後はパリ自然史博物館の植物画家となり、ナポレオン后妃ジョゼフィーヌの植物コレクションを描いた図譜が高く評価され、今日まで「花のラファエロ」と称えられています。その画業のなかでも、169種のバラを全て自身で描き、1817年から1824年にかけて多色刷銅版で出版した『バラ図譜』は彼の代表作であり、史上最も美しい植物図譜のひとつに数えられます。本展は『バラ図譜』より選び出された約120点を中心に、植物図譜をみる愉しみと、育て愛でる花としてのバラの魅力を紹介する展覧会です。さらに、日本のボタニカル・アートの実験者のひとりである二口善雄が手がけた『ばら花譜』（平凡社、1983年）の原画や、写真家石内都が独自のまなざしでバラを撮った《Naked Rose》シリーズをあわせて紹介し、時代を超えて人々の心を捉える「花の女王」の人気の秘密に迫ります。



ルドゥーテ『バラ図譜』より ーうるわしき薔薇の肖像 Pierre-Joseph Redouté

ルドゥーテが『バラ図譜』を出版した19世紀初頭は、庭園造りにおいてバラの育成が市民にも流行しはじめた頃でした。『バラ図譜』の序文では、本書が、植物学的な正確さを備えた図版で構成されたものであると同時に「バラの愛好家たち」に向けたものであり、植物学に詳しくない個人でも活用できるように配慮されたものであることが述べられています。全169図からなる『バラ図譜』は、当時フランスで入手できたすべての品種を記録すべく、野生種、フランスの庭にあった園芸種に加え、中国やアメリカから持ち込まれたばかりの品種など多彩なバラのすがたを網羅しています。これらは19世紀後半にモダンローズが生まれる前の、オールドローズの貴重な記録ともなっています。

本章では、『バラ図譜』169点より約120点の版画を、「いにしへのバラ」「中国からきたバラ」「新しいバラ」「野生種およびその派生種」の4つのセクションに分けてご紹介します。



二口善雄『ばら花譜』原画 Futakuchi Yoshio

二口善雄（1900-1997）は戦後日本のボタニカル・アートを牽引した植物画家のひとりです。東京美術学校（現・東京藝術大学）洋画科を卒業後、東京帝国大学理学部植物学教室（現・東京大学植物学教室）に勤務して文部省の理科図集などに精密な植物画を描きました。1983年に出版された『ばら花譜』（平凡社）は日本を代表する育種家、鈴木省三と植物分類学者、靱山泰一の共著で、図版を二口が手がけました。本書は植物画の正確な描写と繊細な美しさで読者を楽しませる豪華本となっており、戦後日本の園芸ブームにおいてバラがいかに人気を誇っていたかを物語っています。

本章では、『ばら花譜』の原画より、日本の野生種、オールドローズ、ルドゥーテの時代にはまだ誕生していなかったモダンローズ、さらに鈴木省三によって作出された品種も含め昭和のバラを描いた素描作品16点をご紹介します。



石内都《Naked Rose》ー 薔薇の素顔 Ishiuchi Miyako

資生堂でバラの香りの研究に従事し数々の香りを生み出してきたパフューマリー・ケミスト蓬田勝之の著作『薔薇のパルファム』（2005年、求龍堂）のために写真を依頼された石内都（1947-）は、そのとき初めてバラを被写体としました。それまで建物や身体に刻まれた時間の痕跡をテーマに写真を撮り続けてきた石内は、この《Naked Rose》シリーズでバラの生を捉えることを試みます。「ヒソヒソ、ヒソヒソと、風に揺られる薔薇達がおしゃべりをはじめ」（「永遠なる薔薇」展図録、資生堂、2005年）と作家が語るように、石内が撮ったバラは盛りをすぎても、花卉が傷ついていても生き生きとして、庭先で私たちが見る素顔の美しさを見せてくれます。

本章では《Naked Rose》シリーズより22点を映像作品とともにご紹介します。

広報用画像



ピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ
《ロサ・ケンティフォリア・フォリア
アケア》1820年

1



ピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ
《ロサ・スルフレア》1817年

2



ピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ
《ロサ・ルブリフォリア》1817年

3



ピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ
《ロサ・ダマスケナ》1820年

4



ピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ
《ロサ・ガリカ・ラティフォリア》
1821年

5



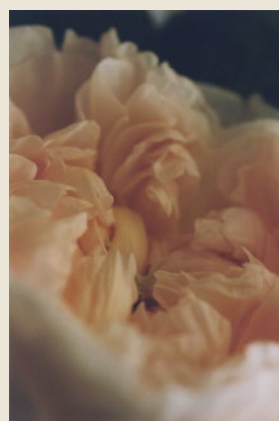
二口善雄《キモッコウバラ》1978年、
千葉県立中央博物館（前期展示）

6



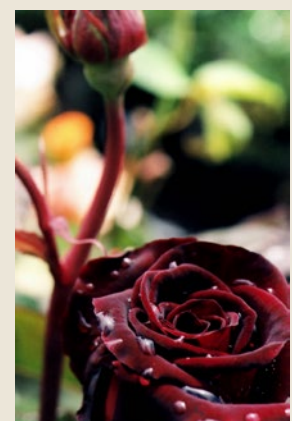
二口善雄《シカゴ・ピース》1975年、
千葉県立中央博物館（後期展示）

7



石内都《Naked Rose #3》2005年、
株式会社 資生堂、©Ishiuchi Miyako

8



石内都《Naked Rose #5》2005年、
株式会社 資生堂、©Ishiuchi Miyako

9

*1～5はすべて『バラ図譜』1817-24年、多色刷点刻銅版（手彩色補助）・紙、コノサーズ・コレクション東京
*前期展示：7/9～7/31、後期展示：8/2～8/28（表示のないものは全期展示）

開催概要

展覧会名	うるわしき薔薇 ―ルドゥーテ『バラ図譜』を中心に
会期	2022年7月9日（土）～8月28日（日）
会場	群馬県立近代美術館 展示室1
休館日	毎週月曜日（ただし7月18日、8月15日は開館）、7月19日（火）
開館時間	午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
観覧料	一般800（640）円、大高生400（320）円 *（ ）内は20名以上の団体割引料金 *中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料
主催	群馬県立近代美術館
特別協力	コノサーズ・コレクション東京

関連行事

講演会

「ルドゥーテが描いたバラ（仮題）」
講師：御巫由紀（千葉県立中央博物館）
7月24日（日） 午後2時～3時30分
2階講堂、要申込（定員70名）、参加無料

石内都アーティスト・トーク

8月20日（土） 午後2時～3時30分
2階講堂、要申込（定員70名）、参加無料

学芸員による作品解説会

7月16日（土）、8月3日（水）、8月14日（日） 午後2時～3時
2階講堂、要申込（定員70名）、要観覧料

※関連行事は新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、少人数で距離を保って開催いたします。
申込方法やその他詳細は当館HP等をご確認いただくか、当館までお問い合わせください。

お問い合わせ

群馬県立近代美術館
広報担当 見城久美子 KENJO Kumiko
E-mail kenjo-kumiko@pref.gunma.lg.jp
370-1293 群馬県高崎市綿貫町992-1
TEL 027-346-5556 / 5560 FAX 027-346-4064

